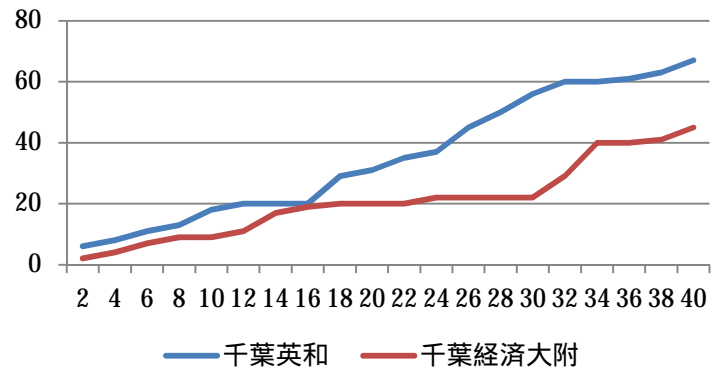
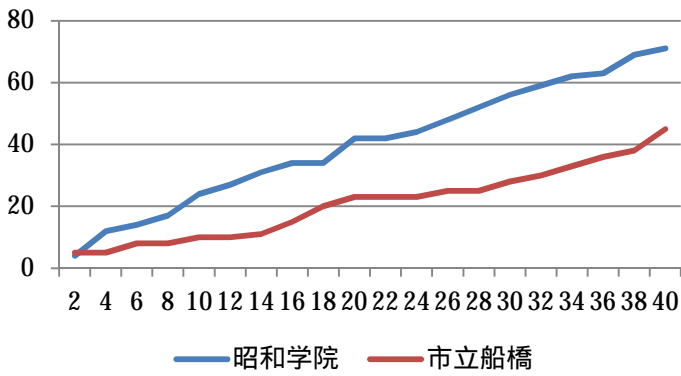


平成23年度千葉県高等学校総合体育大会 ゲームレポート 最終日

Game	Team	1Q	2Q	3Q	4Q	OT	Total
A1	昭和学院	24	18	14	15		71
	市立船橋	10	13	5	17		45

Game	Team	1Q	2Q	3Q	4Q	OT	Total
B1	千葉英和	18	13	25	11		67
	千葉経済大附	9	11	2	23		45

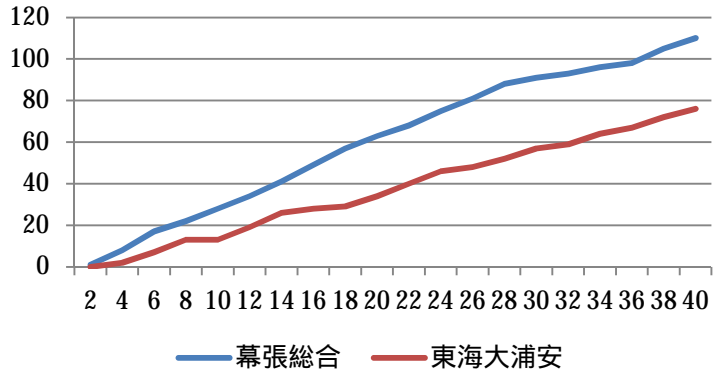
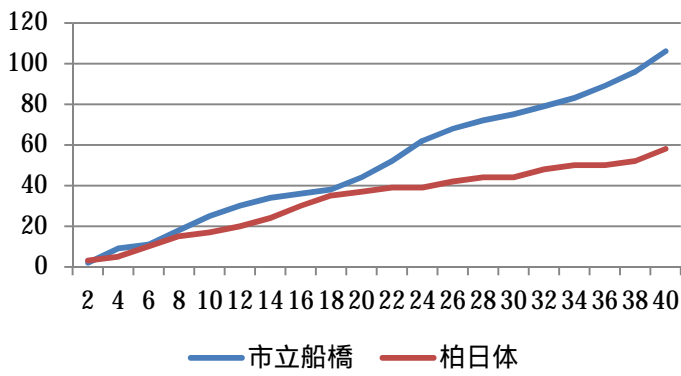


両チームとも開始直後から積極的にシュートを狙う。その中で先制点を取ったのは昭和学院。前半、昭和の身長を生かした中のDFをうまく攻めることができなかった市船はなかなか点数を伸ばすことができない。それに対し昭和は早いパス回しでアウトナンバープレーを狙い、コーナーからの3Pで点を稼ぐ。ゴール下やリバウンドも強い昭和はシュートの勢いも止まらず、42対23とリードを広げ前半を終える。
後半戦DFをゾーンプレスに変えた市船は、パスカットを積極的に狙い、ゴールまでボールを運ぶがなかなか点数に繋がらない。DFがうまくいくことにより活気がつくものの、流れが変えられなかった市船は昭和の勢いを止められなかった。4Qに入り、OFにも活気がついてきた市船だったが3Qで開き過ぎた点差をうめることができなかった。71対45と昭和学院が勝利をおさめ、インターハイへの切符を手に入れた。しかし、4Qの市船の追い上げにくげづけになった。

両チームマンツーマンDFでスタート。千葉経済は、オールコートマンツーマンあたりが強く、ファールが重なった。英和は#4藤岡を起点に速攻で点を稼ぎ18対9で1Q終了した。2Q開始直後、経済が先制点を取り流れをつかむが、英和の強いDFに阻まれた。残り3分で流れを止められ経済は得点を決めることができず2Q終了。
3Q、英和がスクリーンプレーをうまく切り抜け、シュートにもっていくプレーが目立った。経済は集中力が切れたのか、1ゴールしか得点を決めることができず22対56で終了。4Q、英和はスタートメンバーをおろし、経済の#14眞茅のスティールから得点に繋げ流れをもっていく。しかし、英和がスタートメンバーに戻すと経済の流れが止まってしまった。最後まで粘り強いDFをみせた。千葉英和が45対67で勝利した。

Game	Team	1Q	2Q	3Q	4Q	OT	Total
A2	市立船橋	25	19	31	31		106
	柏日体	17	20	7	14		58

Game	Team	1Q	2Q	3Q	4Q	OT	Total
B2	幕張総合	28	35	28	19		110
	東海大浦安	13	21	23	19		76



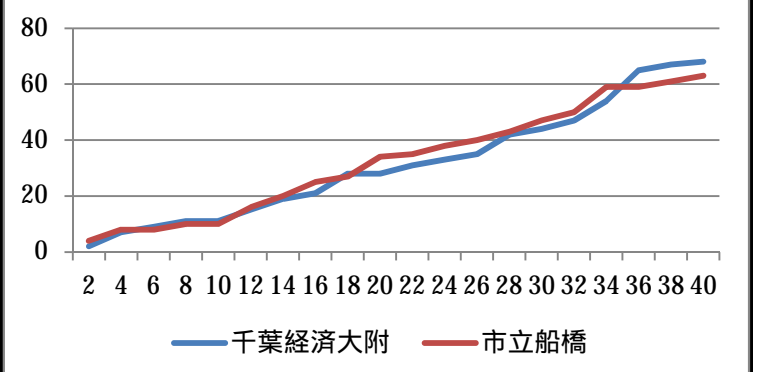
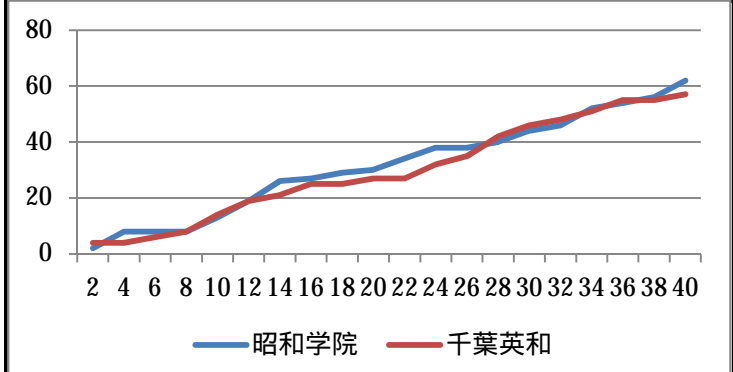
市船が先制して始まった第1Qは序盤からリバウンドやルーズボールなどで激しいプレーを見せる。それに対し、柏日体も#5山崎の3Pをはじめとするシュートや#4久保田が市船の速攻のチャンスを止め、簡単に点を取らせな。しかし第2Qに入り、市船がフリースローやリバウンドを競り勝つなど10点差にまで差を広げ、前半戦は44-37で市船が優位に立った。後半戦は市船#7古牧のバスケットカウントやスリーポイントなどで16点にまで差を広げた。柏日体はタイムアウトで流れを変えようとするがその後市船#4西鶴の3Pなどで点を重ねていき勢いは止まらない。それに加え柏日体はファールが多く、相手にフリースローを与えてしまう。第4Qに入り柏日体はゴール下を果敢に攻めて巻き返しを狙うが、市船の高さに苦しみ、なかなか得点をあげることができなかった。市船#4西鶴の高い技術力、攻めさせる隙を与えない市船のディフェンスより106-58と大差をつけて市船が勝利した。

両チーム、共にハーフマンツーマンからスタート。立ち上がり両チーム果敢にシュートを狙うがなかなか得点に繋がらない。しかし先にバスを掴んだのが幕張総合。#4柳本、#6渡部の3Pで一気に東海大との点差が広がる。第2Qに入り、幕張総合は#5宍倉の高さを生かしたプレーを中心に次々に得点の重ねるが、ファールがかさみ、フリースローのチャンスを与えてしまう。そのファールを生かし東海大はフリースローを決め、更に合わせのプレーが増えるが点差を縮める事は出来なかった。後半に入り東海大#11榎本のリバウンドが目立ちそこからリズムをつくろうとするが幕張総合の勢いに苦む。第4Q、両チームメンバー交代が増えたにも関わらずスピードが落ちる事はなかった。互いに点数を加えていったがやはり東海大は幕張総合の高さや3Pを止める事が出来なかった。110-76で幕張総合が勝利し、インターハイ出場を決めた。

平成23年度千葉県高等学校総合体育大会 ゲームレポート 最終日

Game	Team	1Q	2Q	3Q	4Q	OT	Total
A3	昭和学院	13	17	14	18		62
	千葉英和	14	13	19	11		57

Game	Team	1Q	2Q	3Q	4Q	OT	Total
B3	千葉経済大附	11	17	16	24		68
	市立船橋	10	24	13	16		63

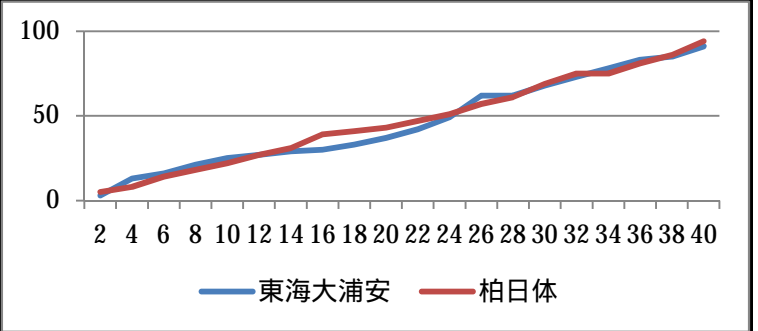
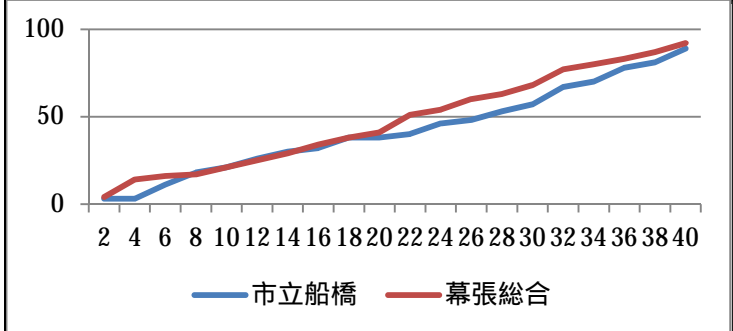


千葉英和の先制点から試合が始まった。お互いにディフェンスはマンツーマン。昭和の落ち着いたパス回しに対し、英和はシュートに繋がる攻撃的な攻めが多かった。だが、両チームとも守りが固くスコアの戦いが続く。30-27、昭和のリードで後半を迎えた。前半速い攻めが多かった英和は、後半24秒をフルにつukaiゴールへ持っていく。なかなか点差が縮まらない中、3Q残り3分で英和が逆転。一方昭和は一時、流れに飲み込まれるかと思われたが、リードを奪い返し、再び昭和の流れとなった。英和は懸命にくらい付くが焦りが出たのかファウルなどのケアレスミスが多くなり、チャンスがあっても生かす事が出来なかった。そのまま、試合は流れ結果62-57で昭和学院の勝利となった。見ているだけで興奮するような、最後までどちらに転ぶか分からない激戦となった。インターハイでの活躍が期待できるゲームだった。

両チームマンツーマンディフェンスでスタート。千葉経済は試合開始直後からファウルでスタートし、市立船橋は先制点を得た。その後点の取り合いが続き千葉経済#4斎藤が連続点を決め流れを掴んだ。しかし市立船橋がタイムアウトを取り、その流れを止め28-34で市立船橋がリードのまま前半終了。後半は、千葉経済#10渡邊が大量得点をし、差を詰める。だが市立船橋のスピードに対応できず、ファウルをする場面が前半より増えた。しかし千葉経済は集中力を切らさず#14眞茅がスリーポイントを決め流れを掴んだ。市立船橋が流れを変えようとタイムアウトをとるが流れを変えられず、焦った市立船橋がファウルを重ねた。後半に入り、怒涛の追い上げを見せた千葉経済が63-68で勝利した。

Game	Team	1Q	2Q	3Q	4Q	OT	Total
A4	市立船橋	21	17	19	32		89
	幕張総合	21	20	27	24		92

Game	Team	1Q	2Q	3Q	4Q	OT	Total
B4	東海大浦安	25	12	31	23		91
	柏日体	22	21	26	25		94



スタートからゴール下の激しいプレーで両チームともファウルが重なる。その中、フリースローや#13中村のシュートなどで一時は11点差で幕総が優位に立つも、市船の高さを生かしたセンタープレーや#12田代への合わせで流れを取り戻し、1Qは21-21の同点で終了。そのまま一進一退の攻防が続く、幕総#4柳本の3P、市船#7古牧のジャンプシュートなどで両者一歩も引かない前半戦となった。
後半開始2分で幕総が一気に10得点を挙げ流れを掴む。その後3Pを決め勢いをつける。4Q、市船もフォワード石井の3Pや#8江原の3P、リバウンドシュートが決まり4点差まで追い詰め、幕総に食らいつく。しかし、幕総#5宍倉のフリースローが2本決まり市船は一歩及ばず、89-92で幕張総合高校が優勝を決めた。優勝決定戦にふさわしい見ごたえのある試合であった。

両チームともハーフコートマンツーマンから試合が始まった。1Qは東海大浦安は3Pに対し日体は高さを生かしたゴール下のプレーで得点を重ねていった。2Qになると東海大浦安のシュートが入らなくなったのに対し、日体はリズムを崩すことなく落ち着いてプレーを見せた。3Q東海大浦安#5田代の3Pが鮮やかに決まり、怒涛の攻撃を見せた。一度逆転をするも日体が意地を見せ逆転という展開。4Qに入るとすぐに東海大浦安#6篠原の連続3Pで追い上げるが、日体#10王のリバウンドに対応できず一進一退の攻防。日体リードで迎えた終盤、1ゴール差まで詰め寄った東海大浦安であったが、日体の粘り強さ、高さにあと一歩及ばず91-94で日体が勝利を収めた。両者力を出し切った好ゲームであった。